

幌延町地域振興(観光)計画 アクションプラン【素案】



平成30年3月 日

○目的

「幌延町地域振興（観光）計画」推進に向けた具体的取組みを定めることを目的に策定する計画です。

○概要

総合計画の下位に位置付けた「幌延町地域振興（観光）計画」を補完するためのプランです。（右図参照）

幌延町地域振興（観光）計画に基づいた方策を展開するため、「短期」「中期」「長期」の大きなスケジュールに沿い、具体的取組みを記載しています。

なお、本プランは、上位計画である「幌延町地域振興（観光）計画」の見直し時の他、PDCAサイクルに基づき、必要に応じてプランの見直し・改善を行います。

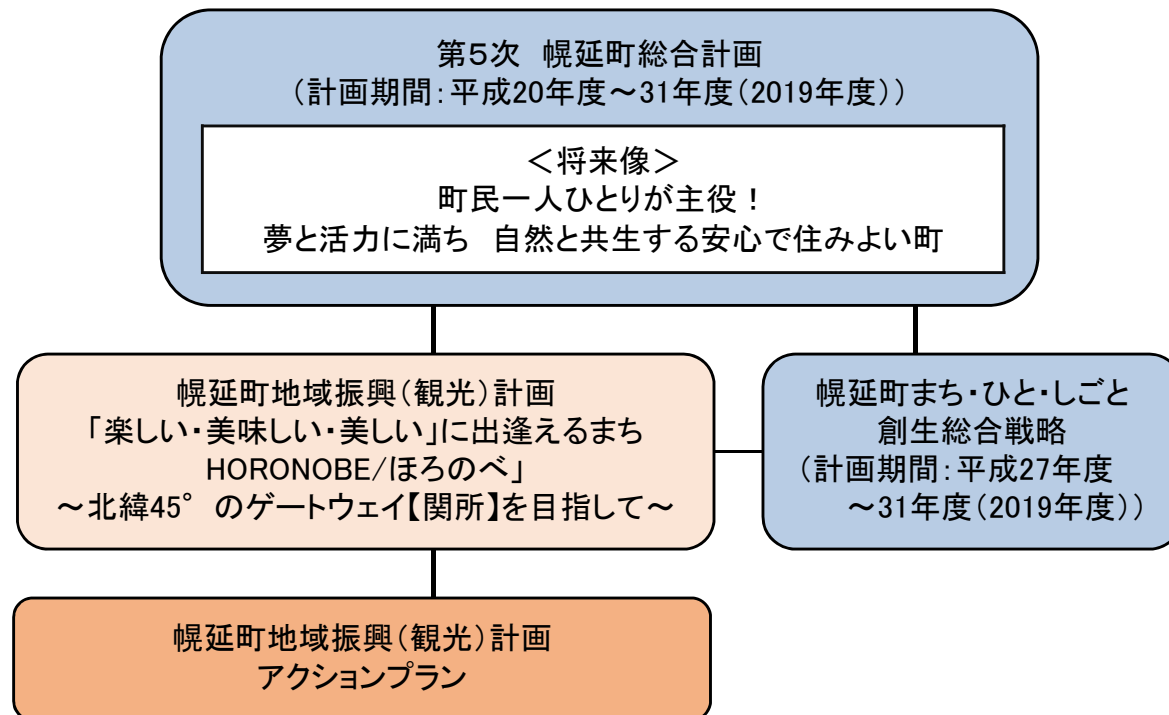


図1.各種計画の位置づけフロー

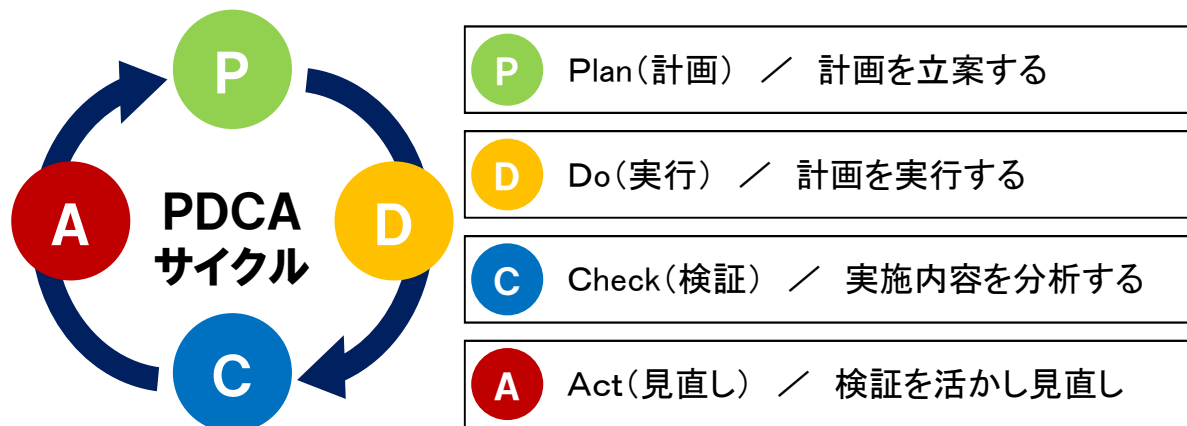


図2.PDCAサイクル図

2. 幌延町地域振興（観光）計画の概要

幌延町地域振興（観光）計画の策定にあたっては、『幌延町まち・ひと・しごと創生会議「幌延町地域振興（観光）計画」検討会』を設置し、内容検討等や観光資源調査を実施。また、検討ワークショップの開催、さらに各種アンケート調査、学生を対象とした観光アイデアコンテストを実施しました。

表1.本計画策定に関わる調査・検討

項目	概要
幌延町地域振興（観光）計画」検討会	観光関係者や公募の他、産官学金労言議による検討会を開催
検討ワークショップ	特産品開発、拠点づくり、まちづくりの3テーマで検討
観光資源調査	夏期・秋期・冬期の観光資源について関係者や町民等と調査
おいでよ！ほろのべアイデアコンテスト	幌延町に住む小学生、中学生、高校生を対象にアイデア募集
町民アンケート調査	観光に関する町民の意識等を把握するためのアンケートを実施
旅行者アンケート調査	旅行者のニーズ等を把握するため観光客にアンケートを実施
まちづくり講演会	地域活性化と観光に関する講演会を開催

表2.幌延町総合計画及び幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標

記載計画		指標	平成24年度実績	平成31年度目標
総合計画	総合戦略			
●		観光資源に恵まれたまちと思う人の割合	13.1%	18%
●	●	観光入り込み客数	121,782人	130,000人
●	●	トナカイ観光牧場入場者数	48,244人	50,000人
	●	鉄道系観光客数	-	500人

幌延町地域振興（観光）計画

「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ
 ～北緯 45° のゲートウェイ【関所】を目指して～



平成29年3月

表紙

「幌延町地域振興（観光）計画」の主な内容は、次のとおりです。

目指す姿

メイン 「楽しい・美味しい・美しい」に出逢えるまち
HORONOBE/ほろのべ

サブテーマ ～北緯45° のゲートウェイ
【関所】を目指して～

基本理念

- ①観光振興を通じてまちが“潤い・元気”になる
- ②幌延にしかない貴重な体験・経験を提供し、“幌延ファン”を増やす
- ③立地を活かし、宗谷地域を訪れる観光客の“交流点”となる
- ④エネルギーを生産・研究するまちとして、“観光・環境・学術の共存”を目指す
- ⑤“町民みんなが活躍”することで、人口減少に負けない観光まちおこしを実現する

基本戦略

戦略1. 既存観光施設の魅力向上

戦略2. 雄大な自然資源の活用

戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出

戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発

戦略5. 地域特産品の開発

戦略6. 冬の賑わい創出

戦略7. 情報発信の強化

戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備

「幌延町地域振興（観光）計画」の主な内容は、次のとおりです。

基本戦略	主な施策	
戦略1. 既存観光施設の魅力向上	トナカイ観光牧場	戦略1-1 観光客受入環境整備の推進
		戦略1-2 トナカイのイメージを活かした演出
	幌延ビジターセンター及びサロベツ原野エリア	戦略1-3 美しく花を見せる花壇の整備
		戦略1-4 自然を体感できるメニューの開発と提供
		戦略1-5 木道等の環境整備
	オトンルイ風力発電所	戦略1-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発
戦略2. 雄大な自然資源の活用	戦略2-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供	
	戦略2-2 四季に応じた体験メニューの開発（山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等）	
戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出	戦略3-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興	
	戦略3-2 サイクリングやカヌー、フィッシング、徒歩等のクワイエットスポーツによる観光振興	
戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発	戦略4-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用	
	戦略4-2 酪農等を体験する農家民泊の実施	
戦略5. 地域特産品の開発	戦略5-1 酪農の6次産業化や特産品開発	
	戦略5-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発	
	戦略5-3 地域特性を活かした農業の展開	
	戦略5-4 湧水の活用	
	戦略5-5 外部連携による食資源の活用	
戦略6. 冬の賑わい創出	戦略6-1 アイスキャンドル等による官民連携・協働イベントの開催	
戦略7. 情報発信の強化	戦略7-1 動画等による情報発信の強化	
	戦略7-2 観光大使による情報発信の強化	
	戦略7-3 町内飲食店の情報発信の強化	
	戦略7-4 ホスピタリティの充実	
戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備	戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点	
	戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点	
	戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点	

①関連事業者からのヒアリングの実施

アクションプランを策定するにあたり、観光関連事業者における現状・将来展望について把握することを目的に、ヒアリング調査を実施した。

内容：観光関連事業者へのヒアリング

時期：平成29年6月12日（月）～13日（火）

ヒアリング対象：飲食関係/1団体 宿泊関係/2団体 観光関係/2団体 企業等/9団体

設問	ヒアリング対象ごとの聞き取り項目			
	飲食関係	宿泊関係	観光関係	企業等
基本情報（団体名・代表者名・設立年度・主な事業等）	○	○	○	○
利用者等の現状（利用者数・利用者の属性等） ・繁忙期、閑散期（傾向） ・外国人来訪	○	○	○	×
幌延町地域振興（観光）計画の認識と意見 ・幌延らしい観光メニュー ・特産品開発 ・道の駅等の観光拠点整備	○	○	○	○
幌延町の活性化や振興に関してこれまで取り組んだこと ・成功例、失敗例	○	○	○	○
幌延町の活性化や観光振興において課題と感じていること	○	○	○	○
幌延町の活性化や観光振興において重要視すべきこと	○	○	○	○
幌延町の活性化や観光振興を図るために今後取組みたいこと ・町民／団体、企業／行政が取組むべきこと	○	○	○	○
その他	○	○	○	○

①関連事業者からのヒアリングの実施

		幌延町地域振興（観光）計画の認識と意見
		計画全体に関するご意見（幌延らしい観光メニュー／特産品開発／道の駅等の観光拠点整備）
1	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 率直に言うと、どの施策も発展性が見られない。 天塩と稚内の中で道の駅を作っても利用者は見込めるのかという疑問はある。
2	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の計画検討においては、すでに役場内で固められた計画に合意するだけのように感じた。 ゲートウェイという言葉の使い方について意見を申ししたが、聞き入れられずそのまま活用された。その理由については説明が欲しかった。
3	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 酪農や農業を学ぶ学生の実習や単位取得を幌延で実施してほしい。 学生の受入れにおいては、安価に滞在できる受入施設が必要となる。既存の空き家等を活用し、整備出来れば良い。
4	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 純粋な民間企業ではペイできない事業も計画の中にはあるだろう。儲からない仕組みにならないものは、やるべきではない。
5	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 検討会は「議論」になっていない。委員から一言ずつ意見をもらう形では、議論にならない。それぞれの想いが反映できているかは疑問が残る。 道の駅については、農家さんが自らの生産物を消費者に届けるきっかけの場所になる。道の駅が出来たとしても、商工業が力をつけないと町の魅力とならない。町に人が来ない。
6	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 幌延町への来訪目的や立寄り先のひとつになればいいと思う。ゆめ地創館が観光の核にはなるとは思わない。 国の機関であるということもあり、観光に関するが提案しづらいところもある。リニューアルもしづらく、研究協定の枠内で事業を進めるのみだと考えている。
7	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 幌延町の観光振興に資する施策を打ってほしい。ただ、他の地域と違うものを。まず、幌延がどこにあるのか分かってもらえていない。 旅行雑誌や道北団体旅行の立寄り先として提案してはどうか。
8	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の調査で行った北大研究林は感動した。幌延に住んでいるが、あのような場所があるとは知らなかった。研究林付近の林道も風景が綺麗な場所がある。研究林については、専門的な知識を持った方がガイドしないとおもしろいと感じることができない。
9	企業等	<ul style="list-style-type: none"> インバウンドについては、アジア人は態度が悪い。ほとんど幌延町には外国人観光客は来ていない。研究者は来るが。 トナカイ観光牧場をオートキャンプ場にするのはどうか？アトラクションなども作る。上勇知にある自然体験学校のようなもの。 コテージなどを作ったりするのも良いが、宿泊は豊富に任せてもいいのではないかと？幌延には温泉はない。 秘境駅はグッズも売れず、一般受けしないので、一旦区切りをつけるべきではないか？そのお金を別の取組に投入した方が良い。
10	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> 会社として、関与しようがない。町と協働するにも未確定要素が多く、スピード感がない。それよりもインフラなどの町の施策に合わせて企業戦略を練る。 長期滞在者へ幌延での休日の過ごし方を提供することはできる。
11	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> 夢を語り計画を策定することには賛成だが、実現することは、別物だと思っている。 トナカイの缶詰については、数は多くないが旅行者から購入希望がある。ただ、数が少ないため欠品することがあり残念に思う。

①関連事業者からのヒアリングの実施

		幌延町地域振興（観光）計画の認識と意見
		幌延町の活性化や観光振興における課題や今後重要視すべきこと
1	観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ・町民が楽しめるイベントを行い、口コミで広げて行ければ良い。町民が楽しまなければ観光客は来ない。 ・いろいろな取り組みを行ったが、途中でやめることが多い。今年度をきっかけに、できることから、長く続けられるようにしたい。 ・今来ている旅行者も幌延町に来ることがない。道の駅構想も重要であるが、町への導線をつくる。町に人を呼ぶためにも、食や特産品開発が必要。
2	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生などの国の施策に振回されている印象はある。 ・何も無いことを売りにすべきではなかろうか？ ・企業誘致条例がしっかりしていれば、職員は誘致に動ける。
3	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品が無いことも課題と思う。自社で真空パックの味付けジンギスカンを商品化する予定がある。羊も幌延産が良いが今はできない。酪農の施設であれば、羊を飼育することはできると思う。
4	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・酪農は日々の酪農経営で忙しく、人手が不足。経営者も高齢になっているため、大きな投資が出来ず、小さな経営となっている。 ・若い人が足りない。酪農は収入が大きい、支出も大きい。若い人からは休みもなく、倦厭される。 ・幌延らしいオリジナルの特産品があれば良い。
5	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・「本物」が食べられること。 ・地元が見るとネガティブなものでも、外から見るとポジティブに見えることもあり、それを大切に扱うこと。 ・「活性化」の先が見えない。雇用を増やしたいのか？単に観光資源を増やしたいだけなのか？選択と集中が必要。
6	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・経済効果に繋がるようにすることが必要。評価は人数だけではなく、経済効果についても把握する必要がある。 ・地方創生に向け、人口減少による人手不足の解消等を議論し、本計画につながっている。最初の根本を忘れてしまうように思う。
7	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・幌延町で目玉となるコンテンツが無いこと。自然はあるが、自然を活用した施設や体験、ガイドがない。 ・遊ぶ場所、買い物できる場所、見る場所がないと人が集まらないのではないか。
8	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なプランは存在しないと思う。 ・検討する過程も重要であるが、特産品の試験的なネット販売など、取り組みやすいプロジェクトを実施してみることもいいと思う。
9	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の取り組みについてはリーダーシップをとる人が重要。 ・幌延は「好きな人」が個人的な趣味嗜好を目的に訪れる町だと思う。 ・秘境駅や自然好きなどの方が、何を求めているか分からない。観光客と町を繋ぐものが無いため、実感がわからない。
10	企業等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験に特化した予算組みをしてほしい。
11	観光関係	<ul style="list-style-type: none"> ・研究林については資源であるが、ガイドが必要。
12	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットが曖昧だから、計画も焦点が絞れず、行動にも移せない。 ・出来た計画に対して、商売の軌道に乗せてほしいと依頼されても、儲ける気がしない。 ・今までの計画を検証し、何が進んで何が滞っているかを精査するのも良いのでは？
13	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> ・町民に積極的に関わり、理解してもらうことが必要。さらに、どんなことでも少しずつ取り組んでみるのが重要。 ・幌延町だけではなく、他の町との連携も重要になる。

①関連事業者からのヒアリングの実施

		幌延町の活性化や観光振興を図るために今後に取り組みたいこと		
		町民が取り組むべきこと	団体、企業が取り組むべきこと	行政が取り組むべきこと
1	観光関係	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が中心となって活動してほしいが、若い人が少ない。いろいろな役があり負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> トナカイ料理コンテストはおもしろいかもしれない。 食肉として出荷するためには、手続きが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 役場は若い人が増えたため、イベントなどでは戦力になっている。
2	企業等			<ul style="list-style-type: none"> 観光案内所をつくり、レンタサイクルなどを行う。シルバー人材センターなどの力を活用するのも良いだろう。
3	企業等		<ul style="list-style-type: none"> 天塩町などは農家レストランなど六次産業化が進んでいるが、幌延は全く進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺にある程度の生活施設が集約されており、生活しやすい。高齢者の住みかえも含めコンパクトなまちづくりをした方が良い。JRの存続の取組みになる。
4	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 温暖化が進んでおり、幌延でも作物ができないか個人的に実験してみたい。作物であれば、小規模で高齢者でもできる。町がハウスを建ててあげれば良い。道の駅での販売にも繋がる。 		<ul style="list-style-type: none"> 学生の受入れについては、宿泊施設（箱モノ）が必要となる。今ある空き家などを活用すれば良い。 研究センターに来ている研究者や大学生等との交流を深め、「学」を活用する等さらに交流を深める。
5	企業等		<ul style="list-style-type: none"> 特産品の開発ならできる。お菓子屋さんをやってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 就農支援の受入れは農園で行うので、研修後の新規就農者が気易く農地を手に入れられるように、町は支援してほしい。 生産・製造・販売が町内でできるような仕組みづくり
6	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 町の山菜等を活用した試食会を有志で実施し、新しい特産や食材の活用について、検討の輪を広げられるきっかけづくりを行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 町民や町の商工業者とのつなぎ役になりたい 	<ul style="list-style-type: none"> 行政が新しいことを始めるには時間がかかる。観光協会などは、外に出して意思決定を速くし、取組みを行う必要がある。
7	企業等		<ul style="list-style-type: none"> 幌延で働く個人としては、地域に協力したいが、企業の方針があるためなかなか難しく、苦しい所。 若い職員が町に出て、交流するような機会があれば良い。 	
8	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 町民が気軽に情報発信ができるような町民投稿用SNS 	<ul style="list-style-type: none"> 何ができるかわからないが、協力したい気持ちはある。ただし、施設の目的としていること以上のことは出来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 使い勝手の良い負担率の無いライトな補助金があれば、何かしたい人は動きやすくなるのではないかな？
9	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 行政と手を取合っしてほしい。例えば、町の行事に積極的に参加するのも良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 秘境駅の存続に向け、クラウドファンディングやふるさと納税を盛んに。ただ、一方では、秘境駅を整備するなどには観光客には望まれていない側面もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 町民が気軽に参画できる体制づくりやイベントを作っしてほしい。またそのイベントには役場職員も積極的に参加してほしい。
1 1	企業等		<ul style="list-style-type: none"> 観光貸切もコースを設定すれば対応可能。しかし、運輸局にコースの届出が必要である。 	
1 2	企業等	<ul style="list-style-type: none"> 町がどこに舵を切ろうとしているかわからないので、対応できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬まつりをまずはやりたい。ただ、町の助成の他に、自主財源必要なので、寄付金や当日の物販で補う。 	
1 3	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> 戦略の中には、本来商売人が自助努力すべきことも含まれているような気がする。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要性が感じられない限り動かない。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発などの新規事業は、民間企業にとってはリスクが高いためチャレンジし辛い。そのようなリスクの高い事業こそ、町が率先して実行してほしい。
1 4	宿泊関係	<ul style="list-style-type: none"> 今取組んでいる事に対して、町が一丸となって協力する体制を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 商工会は、町の土台をつくり、町を盛上げる組織であるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 町民の意見を聞き、事業を遂行することも重要であるが、町に必要なこととして町民に思いを伝える。

② フラワーボランティアの実施

魅力的な『トナカイ観光牧場・ノースガーデン』を目指し、ノースガーデンの花植えや越冬作業等のフラワーボランティアを実施した。

第1回フラワーボランティア

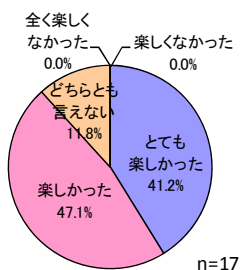
日時：平成29年6月30日 午前10時～12時
 内容：青いケシ（ブルーポピー）の苗植え
 参加者：大人17名／児童（小学生）22名

第2回フラワーボランティア

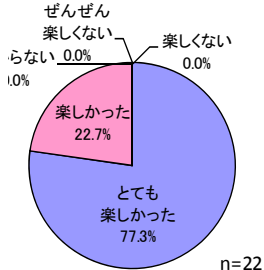
日時：平成29年10月23日 午前10時～11時
 内容：青いケシ（ブルーポピー）の苗の掘り起こし
 参加者：12名



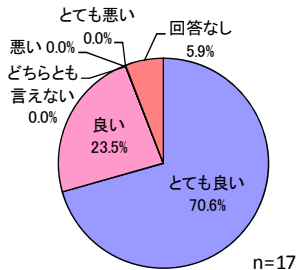
【大人】
作業が楽しかったか？



【児童】
作業が楽しかったか？



【大人】
ボランティア作業の評価



③札幌国際大学モニターツアーの実施（夏期）

<p>目的</p>	<p>幌延町を巡る周遊観光・着地型コンテンツの可能性を調査する為、観光を学ぶ学生にモニターとして参加いただき、商品化等の今後の展開可能性を調査する。</p>
<p>参加者</p>	<p>札幌国際大学 河本先生及びゼミ生 14名</p>
<p>実施の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「実際の旅行者」を想定し、移動や体験を実施 ・「商品化」の可能性のあるプログラム・行程を実施 ・「新たな魅力」の可能性を探す
<p>日程</p>	<p>8月17日（木） 昼頃：幌延町着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゆめ地創館見学 ・ 幌延町観光資源見学（下沼駅／下沼湧水・ビジターセンター・オトンルイ） ・ 浜里の海岸でBBQ・釣り体験 ・ ナイトドライブ、星空観察 <p>宿泊：キャンプ場</p> <p>8月18日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2グループに分かれてアウトドア体験 <一本松トレッキング> <南沢牧場作業体験> ・ 町中の飲食店で昼食 ・ 天塩川でカヌー体験 <p>宿泊：町内のホテル・旅館</p> <p>8月19日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トナカイへの飼育作業体験 ・ トナカイ散歩などの観光メニュー体験 ・ トナカイ観光牧場で昼食 ・ 振り返りミーティング



モニターツアー参加者全員、初めてのゆめ地創館見学



施設内の展示内容や幌延町での研究内容について、担当者より紹介いただいた



ベントナイトを用いた実験の様子



地域おこし協力隊から下沼駅について説明



2階からはサロベツ湿原が一望できる



風車の下まで立寄り、至近距離から見学

③札幌国際大学モニターツアーの実施（夏期）



浜里の浜辺に焼き台を持ち込み、夕食はBBQを楽しんだ



浜辺からカニ釣りを体験



天塩大橋から約4kmをカヌーで



トナカイへの餌やりや水場の清掃など飼育作業を体験



車からサーチライトを周囲に照らして、野生動物を探した。



ふるさとの森キャンプ場に宿泊

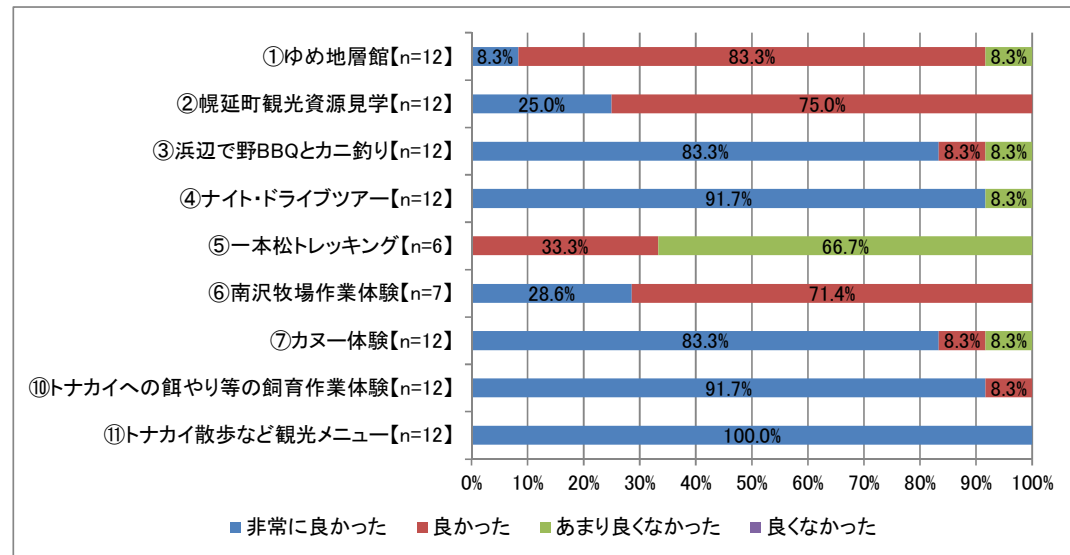


一本松まで約1時間半程度のトレッキング体験



酪農体験として、南沢牧場で牧区の移動などを体験

参加者にアンケートを実施し、体験したメニューの満足度等を調査した。
全体的に満足度は高く、最も高かったメニューは、トナカイ散歩などの観光メニューで、次はトナカイへの餌やり等の飼育体験となった。



④札幌国際大学モニターツアーの実施（冬期）

<p>目的</p>	<p>北海道で初めて行われるスノーカイト大会を見学・体験 の他、冬ならではのアウトドアを体験し、観光の可能性について調査する。</p>
<p>参加者</p>	<p>札幌国際大学 河本先生及びゼミ生 2名</p>
<p>日程</p>	<p>2月24日（土） ※暴風雪のため、スノーカイトの大会は中止。 ※夜のスノーカイト授賞式・パーティーに参加。 2月25日（日） 10:00～12:00 スノーカイトの体験・模擬レースの見学 13:00～14:00 天塩川にてわかさぎ釣りを体験</p>



天塩川に設置されている小屋で、ワカサギ釣りをを行った。

<参加モニターからの主な意見>

○スノーカイトに関する意見

- 誰でも気軽に体験することが可能。情報発信不足のためか町民、観光客の参加者が少ない。競技体験の前にスノーカイトの歴史などが分かる場があれば、もっと競技に対する理解が深まる。
- 純粋に面白かった。けがの心配もなく楽しめるスポーツなのではないかと思った。海外の人を呼ぶのもいいが、北海道民の需要を掘り起こしてほしい。

○わかさぎ釣りに関する意見

- 天塩川で釣りが出来るというプレミアム感がある。スノーモービルに乗り釣り場まで行くこと自体が意外と楽しかったため、あえて寄り道するのも良い。
- 北海道ならではのアクティビティーであり、冬季の厳しい自然を楽しみに変えた良い体験である。ワカサギが多く釣れるスポットであり、誰でも飽きることなく楽しむことができる。釣った後のワカサギを調理する場所の提供や調理方法の説明が欲しい。



カイトの操作からスキーを履いてのスノーカイト体験を行った。

⑤道の駅に関する勉強会・検討ワークショップの開催

日時	平成30年1月25日（木） 18:00～20:15
場所	幌延深地層研究センター国際交流施設
参加者	16名
内容	<p>1. 開会 2. 講演 テーマ：北海道最南端の道の駅から ～道の駅 北前船 松前の現状と取り組み～ 講師：道の駅 北前船 松前 駅長 今泉 欣也 氏 ～休憩～ 3. 検討ワークショップ 19:20～20:00（40分） ・グループに分かれて、具体的な拠点の姿を検討 20:00～20:10（10分） ・各グループで話された内容について、全体で発表 4. 閉会</p>



**幌延町・拠点づくり
勉強会/検討ワークショップ**

日時 平成30年1月25日（木） 18:00～20:15
場所 幌延深地層研究センター国際交流施設

プログラム

時間	内容
18:00～18:05	1. 開会
18:05～19:00	2. 講演 テーマ：(仮) 北海道最南端の道の駅から ～道の駅 北前船 松前の現状と取り組み～ 講師：道の駅 北前船 松前 駅長 今泉 欣也 氏 ～休憩～
19:00～19:05	3. 検討ワークショップ 19:20～20:00（40分） ・グループに分かれて、具体的な拠点の姿を検討 20:00～20:10（10分） ・各グループで話された内容について、全体で発表
20:15	4. 閉会

講師のご紹介

今泉 欣也 氏 道の駅北前船松前（株式会社大宇工業）駅長（運営総責任者）
（札幌県出身）
'09年11月 第1期、地域おこし協力隊員を募集。道庁職員より募集を受けまちづくりの進捗へ。道産、道産物に貢献。
'11年 5月 全道の地域おこし協力隊員、その応募額に驚き、村業しP設立
'12年10月 まちづくりの拠点としての再評価を目的に事業を立ち上げるべく本州より北海道に転居。
'13年 7月 厚岸駅からの距離を短く、道の駅をつぶさる運営責任者（観光協会・事務局員）へ。
'16年 4月～現職

趣味：音楽（トランペット等）、魚、自動車、モーターサイクル、ロードバイク

●道の駅 北前船 松前 概要



国道228号は、歴史と1万本の松が、松前町の中心軸。新築地と本州の交流のため「北前船」が往来していた洋館街の地蔵が鎮める。

旬に合わせたフニ・アヒ・ホホキ、松前町産と新築地の新鮮な魚介類や松前漬やすまもの特産品を販売している。

豪華な「松前大肴」が、当地ならではの「海鮮丼」など、海鮮系メニューが充実した北前食堂。

配布プログラム

幌延町の皆さん
初めまして！



**道の駅北前船松前
駅長 今泉欣也**

Ver.2.1

■道の駅北前船松前①

- ・平成27年4月～現在
道の駅北前船松前 運営開始（松前町指定管理者制度）
- ・スタッフ数
職員：7名（月給3名・時間給4名）
期間雇用：4名
委託契約：1名
- ・年商
約9000万円 ※平成29年度見込み

※施設整備費は自治体負担
※本施設は「道の駅」の施設に認定されている道の駅の施設です。認定施設に認定されていない施設は、認定施設と同等のサービスを提供してはなりません。



道の駅北前船松前での取り組みを紹介



講演後に、2グループに分かれて検討ワークショップを開催した。検討ワークショップでは、道の駅の具体的な機能・サービス・課題について整理した。

⑤道の駅に関する勉強会・検討ワークショップの開催

<グループ①>

	必要な機能	具体的なサービス等	考えられる課題	その他
戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点	薄った天塩川上で遊ぶ セイコマート以外のコンビニ 温泉施設 星を見る場所	高齢者のお弁当も前売って事業をする施設も付属する WiFi(フリー)雑誌(観光イイ) 観光案内(広域) ポリタンクやポットも販売(湧水用) 町民おたのめスペース 朝食サービス	案内者の育成 従属する人がいない 広域連携	
戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化・活性化につながる拠点	軽食食堂 北緯45° 度数は45° ウィスキーは高い ハイボール等は安い 軽延土産 湧水・是系案内 乳製品PRスペース これから開発する特産品の販売できる(人が集まる)場所 (てしおこま)もち・まんじゅう	定期開催イベント 〇〇市、アヤマ 道の駅弁 当面の資金繰り 数年は赤字になる 赤字にならないよう! 軽延財団の設立 保健所の許可が厳しい		
戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点	簡易宿泊所 (8-3) GS(24hセルフ) 移動車がガスが少なくなれば寄るから 暴風雨の時の避難場所	交通、天気、情報(リアルタイム) EV充電		
その他	最北サイクリングスタート地(休憩・宿泊)			

<グループ②>

	必要な機能	具体的なサービス等	考えられる課題	その他
戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点	道の駅の中で外国語のガイドも必要と思う 地域の子供たちとガイドさん(英語等も記載)では 駐車場 トイレ(車椅子の用) インフォメーション フリーWiFi	目立つ看板 清潔感 快適性 協力隊の方には英語の条件が必要 国内旅行者のためのインフォメーション 移動・定住・情報	外国人→アジアor欧米どちらをターゲットとするか明確にする 誰がやるのか	
戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化・活性化につながる拠点	身近なものを特産品の開発 フィンランド化 特産品に特化したレストラン	トナカイの肉は生肉で刺し身や揚げ物で使用する 牛乳・乳製品 いも・かぼちゃ 道の駅売店 20:00まで開いてほしい 既存店の名産、売店、屋台 他のイベントとの相乗	特産品等、販売物をどうやって揃えるか 継続性 モチベーション 他のイベントとの共存 特産品の確保 既存企業との共存	
戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点	自転車	20:00くらいまで開いているガソリンスタンド 整備ができる自転車屋	外国ほか他国内の方向かわからないサイクリスト	
その他	総合スポーツ公園周辺の機能強化	川辺を散策し、バードウォッチング 家族で楽しめるあひるポイント	すでに整備されているが、旧河川敷が多少荒れている	総合スポーツ公園周辺の機能強化

<まとめ>

	必要な機能	具体的なサービス	課題
戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点	<ul style="list-style-type: none"> 子供が遊べるスペース 給油 地域特産品の販売 コンビニ(セイコマート以外) アウトドアサービス(天塩川・夜空) 温泉・入浴 ご当地グルメ フリーWi-Fi 車いす用トイレ わかりやすい町内看板(英語併記) 外国語のガイド(地域の子供とのふれあい) 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者向けのお弁当サービス スポーツ公園利用者の休憩機能 観光に関する雑誌の閲覧 観光や定住・移住案内や情報発信 町民のチャレンジショップ・チャレンジスペース 長距離運転手等への朝食サービス 湧水を楽しむためのポリタンク等の販売 	<ul style="list-style-type: none"> 案内者や従業員の育成・確保 広域連携 インバウンドのターゲット明確化 運営主体検討
戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化・活性化につながる拠点	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の特産品PR 加工施設 幌延らしい特産品(テシオコザクラの饅頭等) 北緯45度に向けた45度のウィスキーやハイボールの提供 食堂(軽食や特産品提供) フィンランド的な空間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なイベントの開催(フリーマーケット等) お弁当販売 他のイベントとの相乗効果 20時までの営業 キャンプ場を設けトナカイ肉を販売 既存店の名産や売店、屋台の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 資金繰り 黒字経営 保健所の許可 既存企業との共存 特産品の確保 他イベントとの共存
戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点	<ul style="list-style-type: none"> 簡易宿泊所 ガソリンスタンド 災害時の避難場所 サイクリストの受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 交通や天気に関するリアルタイム情報の発信 EV充電器 自転車の整備などのサポート機能 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 最北サイクリングのスタート地(休憩・宿泊) スポーツ公園の機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> 家族で楽しめるアヒルポイント 	<ul style="list-style-type: none"> 旧河川が荒れている

⑥ 幌延町の食を知る試食会の開催

日時	平成30年2月13日（火） 16:00～17:30
場所	トナカイ観光牧場 レストランポコ
参加者	20名
内容	<p>16:00 開会</p> <p>16:00～16:10 特産品の紹介（生産者及び関係者）</p> <p>16:10～17:00 メニューの紹介（塚田シェフ） 試食の実施</p> <p>17:00～18:00 講演 「地域が元気になる未来に伝える食文化」 (株)クリエイティブオフィスキュー brasserie coron with LE CREUSET メインシェフ 塚田宏幸 氏</p> <p>18:00 閉会</p>



鴨肉のスモーク幌延の香り



鴨のコンフィ



じゃがいもムースとチーズ



じゃがいものグラタン



トナカイ肉のロースト



下沼湧水のゼリー

参加者にアンケートを実施し、試食した食材の満足度等を調査した。全体的に満足度は高い結果となり、特にトナカイのロースト、じゃがいもグラタンの評価が高い結果となった。

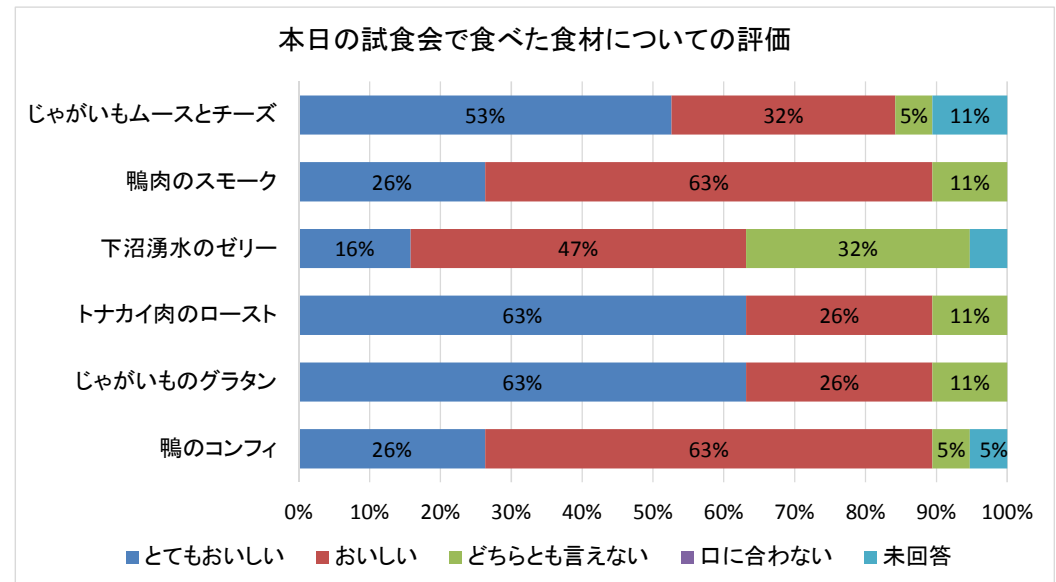
幌延産の食を知る試食会

プログラム

- 14:00～14:05 開会
- 14:05～14:30 活用した特産品の紹介
・トナカイ ・サロベツ合巻 ・幌延産バター ・湧水 等
- 14:30～14:40 試食メニューの紹介
- 14:40～15:20 試食の実施
- 15:20～16:20 講演「地域が元気になる未来に伝える食文化」
塚田 宏幸 氏
- 16:20～16:30 閉会

プロフィール 塚田宏幸氏

1979年札幌生まれ。幼少で札幌から東京へ移住。料理の道に進む。1998年東京で「brasserie coron」を開業。2018年より「brasserie coron with LE CREUSET」を展開中。2019年、トナカイ観光牧場と提携し、トナカイ肉のローストを提供中。



⑦検討ワークショップの開催

モニターツアーによる「観光コンテンツ開発」、試食会等を通じた「特産品開発」における具体的な取組みを検討するワークショップを開催した。なお、ワークショップは、多くの方が参加できるように、「昼」「夜」2回開催した。

昼の部 平成29年7月5日（水） 午後2時～4時

観光コンテンツ開発グループ

参加人数
7名



特産品開発グループ

参加人数
7名



夜の部 平成29年7月5日（水） 午後6時～8時

観光コンテンツ開発グループ

参加人数
9名



特産品開発グループ

参加人数
6名



⑦検討ワークショップの開催

「観光コンテンツ開発」「特産品開発」に関する検討ワークショップ 結果

観光コンテンツ開発（昼の部）

観光コンテンツ開発（夜の部）



⑦ 検討ワークショップの開催

「観光コンテンツ開発」「特産品開発」に関する検討ワークショップ 結果

特産品開発（昼の部）

●活用する食材

- ・山菜やたけのこを使った料理（天ぷら・味噌汁・ウドビクルスなど）
- ・合鴨（EM合鴨カレー・合鴨丼・合鴨ハンバーガー・鴨肉ピザなど）
- ・乳製品（チーズ・バター・いろんなソースをトッピングしたソフトクリーム・牛乳を使ったデザート）
- ・トナカイ肉（シチューなどのレトルト食品・幌延の山菜を使ったトナカイ丼）
- ・湧水（ペットボトルとして販売・湧水コーヒーなど）

●試食会の対象

- ・まずは町民
- ・町外（転勤者など）
- ・イベント等での試食会来訪者
- ・どなたでも

●試食会の実施内容

- ・コンペ形式
- ・有名シェフを招く（アルケッチャーノ奥田シェフ・オテルドゥミクニ三國シェフ）
- ・調理器具の揃っている場所で、真似しやすい時短や簡易な調理法で実習的なところから入る
- ・町内の飲食店が共通で出せるものを考える（合鴨やトナカイ肉を使ったメニュー）
例）「十勝清水牛玉丼」、「白老バーガー」など
- ・ピザが取り組みやすいのでは？（誰でも食べれてたのしい）
- ・料理のレシピを提供

●ご協力いただく団体

- ・町民
- ・商工会
- ・飲食店組合・飲食関係団体
- ・農協・農家
- ・保健センター
- ・雪印との連携
- ・そば打ち愛好会

<課題>

- ・トナカイ肉の生産不足
- ・町内の協力体制
- ・湧水を使う場合、保健所の許可が大変
- ・人手不足をどうするか
- ・意識改革

特産品開発（夜の部）

●活用する食材

インパクト・個性・話題性のあるもの・メイン食材は幌延産
見た目重視・インスタ映え・でかい・かわいいなど

- ・湧水 — かき氷・湧水ハイボール・サイダー・コーヒー
- ・牛乳 — チーズ・ピザ・プリン・アイス・牛乳豆腐
- ・トナカイ — ソーセージ・フランク・トナカイまん・角風ソーセージクリスマスディナーなど
- ・合鴨 — そば・あいがもまん・鴨肉の豚汁風（極寒野外で試食）・燻製
- ・まめ — 秘境駅でポップコーンなどを販売
- ・有機野菜（北星園） — 安心農園の野菜を使った野菜中心のメニュー
- ・特産となるスイーツ — テシオコザクラの葉の形のビスケット・ラスク
牧草をイメージしたロールケーキ

●試食会の対象

- ・まずは町民・幌延町民全員
- ・一般市民

※味をつくるのは町の人※
※隠れた地元の味※
（鮭キムチ・牛乳豆腐など）
※新しい発想も大事※

●試食会の実施内容

- ・コンテスト形式
- ・立食・投票
- ・町内会対抗
- ・特産品コンテスト
- ・審査員はいろんな世代から
- ・飲食店に協力してもらい特産品コンテストを行う
- ・名林公園まつりでおこなう？（既存イベントでの開催）
- ・夏向けと冬向け
- ・いずれは定期市へ・・・！

●ご協力いただく団体

- ・町の飲食店・飲食店経営者
- ・問寒別食生活改善審議会の人たち
- ・地元組合
- ・大手チェーン？

⑧ 幌延町地域振興（観光）計画アクションプラン検討会の開催

第1回 検討会

日時	平成29年6月21日 午後6時～8時
場所	延深地層研究センター国際交流施設 1階多目的ホール
参加者	委員11名 オブザーバー15名
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 自己紹介 3. 委員長・副委員長選出 4. 諮問 5. アクションプラン策定方針について 6. 幌延町地域振興（観光）計画について 7. 平成29年度の事業等について 8. 関連事業者ヒアリング調査の速報について 9. ノースガーデンフラワーボランティアについて 10. 部会・検討ワークショップの開催について 11. 今年度事業についての意見交換 12. その他 13. 閉会

第2回 検討会

日時	平成29年11月1日（水） 午後6時～8時
場所	延深地層研究センター国際交流施設 1階多目的ホール
参加者	委員10名 オブザーバー12名
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 今年度の事業概要 3. これまでの進捗状況について <ol style="list-style-type: none"> ①ノースガーデン フラワーボランティアの実施 ②第1回検討ワークショップの開催 ③国際大学河本ゼミモニターツアーの実施 4. 拠点構想について 5. 今後の事業スケジュールについて <ol style="list-style-type: none"> ①道の駅・拠点構想に関する講演会・ワークショップの開催 ②地元食材等を使用した料理の試食会 ③その他活動 6. 閉会

第3回 検討会

日時	平成30年2月20日（火） 午後6時～8時
場所	延深地層研究センター国際交流施設 1階多目的ホール
参加者	委員6名 オブザーバー11名
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 今年度の事業の概要・進捗状況について 3. 幌延町地域振興（観光）計画アクションプランについて <ol style="list-style-type: none"> ①アクションプラン原案の提示 ②意見交換 4. 幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略について <ol style="list-style-type: none"> ①進捗状況の説明 5. 今後のスケジュールについて 6. 閉会



幌延町地域振興（観光）計画 アクションプラン【原案】

⑨その他

スノーカイト・エンデュランスレース
「フリカムイ・ホロノベ」

日時	平成30年2月22日（木）～25日（日）
場所	幌延ビジターセンター付近
参加者	12名（主に道外）
内容	スノーカイト・エンデュランスレースとは、設定されたコースを規定数周回する速さを競うもの。サロベツ原野を舞台として1周約9キロメートルのコースを設定し、競技時間3時間内で5周するという過酷な耐久レース。 2月22日 公式練習・レセプション 2月23日 競技日（時間内完走者2名） 2月24日 暴風雪のため大会は中止し、トナカイ観光牧場付近でフリーライド。夜は授賞式・パーティー。 2月25日 町民体験会・模擬レースの開催

第1回
ほろのべ雪ん子まつりの開催

日時	平成30年2月12日(月) 10:00～16:00
場所	幌延町生涯学習センター・国際交流施設 駐車場
主催	冬のイベントもりあげたい実行委員会
内容	<ul style="list-style-type: none"> • 雪像6体 • 雪の滑り台 • 野外で食べる炭火焼肉屋 • 各種売店 • 各種ゲーム（餅まき、スノーフラッグ、かき氷早食い競争、そり競争、アイスサッカー、じゃんけん大会） • アイスキャンドル点灯式



基本戦略	主な施策		今年度の取り組み・状況	今年の成果	今後のプラン（アクションプラン）		
					短期	中期	長期
戦略1. 既存観光施設の魅力向上	トナカイ観光牧場	戦略1-1 観光客受入環境整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> トナカイの散歩や給餌、缶バッジづくりを商品化 夏期学生モニターツアーでトナカイの飼育作業体験 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方に体験いただき、好評を得た 	<ul style="list-style-type: none"> 体験メニュー商品化・旅行会社等へのプロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社等へのプロモーション 受入環境整備の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 体験プログラムの強化・充実 受入環境整備の推進
		戦略1-2 トナカイのイメージを活かした演出	<ul style="list-style-type: none"> 夏期学生モニターツアーで飼育作業体験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> モニターからは高い評価を得た 	<ul style="list-style-type: none"> サンタクロースや北欧、漫画など活用するイメージ確立 	<ul style="list-style-type: none"> イメージに沿った整備やサービスの提供 	<ul style="list-style-type: none"> イメージを活用した観光まちづくりの推進
	ノースガーデン	戦略1-3 美しく花を見せる花壇の整備	<ul style="list-style-type: none"> フラワーボランティアの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 施設への関心高揚及び地域愛着の醸成を図ることができた 環境整備の充実につながった 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア募集方法と取り組み内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なボランティア実施 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアツーリズム等による交流人口拡大
	幌延ビジターセンター及びサロベツ原野エリア	戦略1-4 自然を体感できるメニューの開発と提供	<ul style="list-style-type: none"> 夏期学生モニターツアーで、ナイトツアー・星空観察を実施 	<ul style="list-style-type: none"> モニターからは高い評価を得た 	<ul style="list-style-type: none"> 商品化できるメニューの絞込み及び商品化に向けた具体的な検討 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社等へのプロモーション 着地型の旅行商品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の受入れ拡充
		戦略1-5 木道等の環境整備	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアによる環境整備の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者や来訪者が関わる環境整備の在り方検討 	<ul style="list-style-type: none"> 町民、来訪者双方が関わることのできる環境の整備
	オトンルイ風力発電所	戦略1-6 クリーンエネルギーや風車を体感できるメニューの開発	<ul style="list-style-type: none"> 夏期学生モニターツアーで、案内・見学を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> モニターツアーや見学者の受入れによる周知 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な体感メニューの検討 	<ul style="list-style-type: none"> メニューの一部試行と改善 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社や来訪者へのPRや旅行会社への売込み 旅行者の受入れ拡充

基本戦略	主な施策	今年度の取り組み・状況	今年の成果	今後のプラン（アクションプラン）		
				短期	中期	長期
戦略2. 雄大な自然資源の活用	戦略2-1 北大天塩研究林を活用した教育型プログラムの開発と提供	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 教育型プログラムを提供する組織・内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社等へのプロモーション 旅行者の受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の受入れ拡充
	戦略2-2 四季に応じた体験メニューの開発（山菜、鮭の遡上、バードウォッチング等）	<ul style="list-style-type: none"> 夏期学生モニターツアーで、蟹釣りや浜辺のバーベキューを実施 冬期モニターツアーで天塩川でのわかさぎ釣りを実施 	<ul style="list-style-type: none"> モニターからは高い評価を得た 	<ul style="list-style-type: none"> 商品化できるメニューの絞込み・商品化検討 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社等への売込みや着地型商品の造成 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の受入れ拡充
戦略3. 幌延らしい新しい観光の創出	戦略3-1 秘境駅等の鉄道資源を活用した観光振興	<ul style="list-style-type: none"> 秘境駅関連イベントやキャラクターの募集等、各種取り組みを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントの参加者～約200人 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道ファンに向けた町の魅力発信方策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> JR等との連携による独自ツアー等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の受入れ拡充
	戦略3-2 サイクリング、やカヌー、フィッシング、徒歩等のクワイエットスポーツによる観光振興	<ul style="list-style-type: none"> 夏期学生モニターツアーでカヌー体験を実施 北海道初のスノーカイト大会を実施（後援） 	<ul style="list-style-type: none"> カヌー（学生）、スノーカイト（大会参加者・学生）ともに、高い評価を得た 	<ul style="list-style-type: none"> スノーカイト大会の継続開催支援や町内への普及 受入体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 競技フィールドの拡充 ホスピタリティの強化 外国人受入体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> バックカントリースキーとの連携 旅行者の受入れ拡充
戦略4. 幌延らしい滞在メニューの開発	戦略4-1 豊かな自然を身近に感じるキャンプ場の利活用	<ul style="list-style-type: none"> 夏期学生モニターツアーの宿泊場所として使用 トイレ等の施設改修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> トイレの整備やキャンプ用具の貸出しなどの課題があった 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の現状・意向の把握 	<ul style="list-style-type: none"> キャンプ場のPR・受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> キャンプ場活用に向けたさらなる整備検討
	戦略4-2 酪農等を体験する農家民泊の実施	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 民泊制度の整理・受入れ可能農家等の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 試行的な受入れの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な受入れの実施

基本戦略	主な施策	今年度の取り組み・状況	今年の成果	今後のプラン（アクションプラン）		
				短期	中期	長期
戦略5. 地域特産品の開発	戦略5-1 酪農の6次産業化や特産品開発	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 過年度の取り組み状況等の整理 6次産業化や特産品開発の方向性検討 	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化に向けた組織の検討 6次産業化や商品の開発検討 	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者等に向けた商品等の販売
	戦略5-2 トナカイや合鴨の生産強化及び新たな商品の開発	<ul style="list-style-type: none"> 塚田シェフによる試食会を実施（トナカイ・合鴨） 	<ul style="list-style-type: none"> 提供いただいたメニューについては高い評価を得た 	<ul style="list-style-type: none"> トナカイの生産強化、新たな商品の方向性及びメニューの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 開発したメニューの提供と改善 	<ul style="list-style-type: none"> 本格商品化
	戦略5-3 地域特性を活かした農業の展開	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 幌延らしい農業のあり方や組織の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 試行の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 生産体制の強化
	戦略5-4 湧水の活用	<ul style="list-style-type: none"> 塚田シェフによる試食会を実施（湧水） 	<ul style="list-style-type: none"> 試食会で提供いただいた湧水ゼリーは、概ね高い評価を得たが、どちらとも言えないとの意見もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 町内飲食店などによる活用の推進 ゼリーなどの飲料水以外の活用方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者等へのPRによる「湧水」のブランド化 	<ul style="list-style-type: none"> 湧水をさらに活用するための環境整備
	戦略5-5 外部連携による食資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> 塚田シェフによる試食会及び講演を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ブラスリーコロウィズルクルーゼのシェフに試食会を依頼し、食材についてシェフから高い評価を得た 	<ul style="list-style-type: none"> 幌延町や幌延産食材をPRを目的に外部機関と連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 連携による食資源の活用・PRの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 外部との連携拡大
戦略6. 冬の賑わい創出	戦略6-1 アイスキャンダル等による官民連携・協働イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 ほろのベ雪ん子まつり開催（実行委員会による） 	<ul style="list-style-type: none"> イベント参加～約150人 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なイベント開催に向けた体制・仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なイベント実施 	<ul style="list-style-type: none"> イベントを活用した誘客・交流人口の拡大

基本戦略	主な施策	今年度の取り組み・状況	今年の成果	今後のプラン（アクションプラン）		
				短期	中期	長期
戦略7. 情報発信の強化	戦略7-1 動画等による情報発信の強化	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 観光協会の体制強化等による情報発信主体・体制の検討 観光PR動画の制作検討 	<ul style="list-style-type: none"> 幌延町を発信する公式的なSNS等の立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 幌延町情報発信プラットフォームの設立
	戦略7-2 観光大使による情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> 町の各種イベントへの参加 音楽活動に合わせた広報活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 町の知名度向上は図られた 	<ul style="list-style-type: none"> 大使を活用した町の広報方策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 町の認知度向上を目的としたイベント等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 移住や定住を目的としたイベント等の検討
	戦略7-3 町内飲食店の情報発信の強化	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者等に向けた分かりやすい情報発信の実施（マップ等） 	<ul style="list-style-type: none"> ウェブサイト等による外部への情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 旬な情報の発信や各店ごとの情報発信の充実
	戦略7-4 ホスピタリティの充実	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 幌延町らしいおもてなしのあり方を検討 	<ul style="list-style-type: none"> おもてなしに関する勉強会などの開催による普及 	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者へのおもてなしの充実
戦略8. 幌延町と宗谷地域における交流・交通の要処となる拠点の整備	戦略8-1 町民や多様な旅行者が集う拠点	<ul style="list-style-type: none"> 講演会やワークショップで拠点の具体的な機能について検討 	<ul style="list-style-type: none"> 立地条件や具体的な機能やサービス、課題について抽出 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点設置個所の特定及び場所を踏まえた機能の絞り込み 実施主体の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 実施計画の策定 拠点整備 	<ul style="list-style-type: none"> 拠点の運営 拠点を中心とした交流人口の拡大
	戦略8-2 地域特産品の販売など、まちのブランド化、活性化につながる拠点					
	戦略8-3 道や川など多様な移動手段の拠点					

幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

1. 戦略の進行管理

○工程表の改定

- ・ 工程表の進捗、展開状況等に関する庁内ヒアリングを実施
- ・ 取組み状況及び成果の報告、検証（常任委員会・創生会議）
- ・ 改定後工程表の公表～H30.4 予定

2. 移住定住施策について

(1) 移住定住住宅整備

- ・ 平成 29 年度整備 ⇒ 平成 30 年 4 月運用開始予定
幌延地区（旧森林管理署）：短期滞在向け 2 戸
問寒別地区（旧教員住宅）：短期滞在向け 1 戸/長期滞在向け 1 戸

(2) 空き家・空き地バンク運用

- ・ 現在登録物件：9 件（空き地 8 件・空き家 1 件）

(3) 移住情報 PR 支援センター整備※地方創生拠点整備交付金事業活用事業

- ・ JR 幌延駅改修：工期 3/30 ⇒ 平成 30 年 4 月運用開始予定
地域おこし協力隊を主体に運営

3. 産業・地域振興センターの運営について

- 現況：平成 29.12 購入～平成 30.1 から町直営による運営
- 3 月定例会：(株)幌延町トナカイ観光牧場による指定管理者の指定について議案提出～可決

基本目標	ロードマップ												成果目標																																								
	H27				H28				H29					H30				H31																																			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																
(1) まちしごとをつくり安心して働けるようにする	<table border="1"> <tr> <td>ア. 雇農の振興</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 雇農実習生・新規就農者受入 新規就農者研修 支援組織(ヘルパー等)一本化の検討 新規就農研修プログラム策定・研修施設・体制整備 町営草地のあり方の再検討(雇農に限らない広範な新規就農者の受入れ) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新規就農者受入 畜産クラスター事業 農業生産法人による新規農場の設立 搾乳開始 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新規雇用: 10名、新規就農件数: 2件 生乳生産量: 3.8万t→4.0万t/年 農業生産法人設立: 1件 農業従事者数: 253人 </td> </tr> <tr> <td>イ. 商工業の振興</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新店舗、空き店舗支援事業 作業免許取得等助成措置検討 → 梶延町商工業人材育成支援補助金創設 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 商工業活性化及び事業継続支援事業 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 支援事業の利用件数: 2件 起業件数: 2件 空き店舗活用支援事業数: 1件 </td> </tr> <tr> <td>ウ. 企業誘致及び起業支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地元出身者等の起業促進補助の構築、町外向けPR検討 雇用奨励金検討 → 梶延町商工業雇用促進補助金創設 町における標準的な企業誘致条例制定、町外へPR </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新規起業支援事業 新規雇用助成事業実施 企業誘致優遇策拡充 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 起業件数: 2件 新規正規職員雇用増加数: 5名 企業誘致: 2件 </td> </tr> <tr> <td>エ. 再生可能エネルギー事業の推進</td> <td colspan="19"> <ul style="list-style-type: none"> 家電所致談要請・オトノカイ風力発電所運営事業協力・浜里地区風力発電事業推進 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新規再生可能エネルギー事業所数: 1件 </td> </tr> </table>																				ア. 雇農の振興	<ul style="list-style-type: none"> 雇農実習生・新規就農者受入 新規就農者研修 支援組織(ヘルパー等)一本化の検討 新規就農研修プログラム策定・研修施設・体制整備 町営草地のあり方の再検討(雇農に限らない広範な新規就農者の受入れ) 	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者受入 畜産クラスター事業 農業生産法人による新規農場の設立 搾乳開始 	<ul style="list-style-type: none"> 新規雇用: 10名、新規就農件数: 2件 生乳生産量: 3.8万t→4.0万t/年 農業生産法人設立: 1件 農業従事者数: 253人 	イ. 商工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 新店舗、空き店舗支援事業 作業免許取得等助成措置検討 → 梶延町商工業人材育成支援補助金創設 	<ul style="list-style-type: none"> 商工業活性化及び事業継続支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 支援事業の利用件数: 2件 起業件数: 2件 空き店舗活用支援事業数: 1件 	ウ. 企業誘致及び起業支援	<ul style="list-style-type: none"> 地元出身者等の起業促進補助の構築、町外向けPR検討 雇用奨励金検討 → 梶延町商工業雇用促進補助金創設 町における標準的な企業誘致条例制定、町外へPR 	<ul style="list-style-type: none"> 新規起業支援事業 新規雇用助成事業実施 企業誘致優遇策拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 起業件数: 2件 新規正規職員雇用増加数: 5名 企業誘致: 2件 	エ. 再生可能エネルギー事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家電所致談要請・オトノカイ風力発電所運営事業協力・浜里地区風力発電事業推進 																			<ul style="list-style-type: none"> 新規再生可能エネルギー事業所数: 1件
ア. 雇農の振興	<ul style="list-style-type: none"> 雇農実習生・新規就農者受入 新規就農者研修 支援組織(ヘルパー等)一本化の検討 新規就農研修プログラム策定・研修施設・体制整備 町営草地のあり方の再検討(雇農に限らない広範な新規就農者の受入れ) 	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者受入 畜産クラスター事業 農業生産法人による新規農場の設立 搾乳開始 	<ul style="list-style-type: none"> 新規雇用: 10名、新規就農件数: 2件 生乳生産量: 3.8万t→4.0万t/年 農業生産法人設立: 1件 農業従事者数: 253人 																																																		
イ. 商工業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 新店舗、空き店舗支援事業 作業免許取得等助成措置検討 → 梶延町商工業人材育成支援補助金創設 	<ul style="list-style-type: none"> 商工業活性化及び事業継続支援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 支援事業の利用件数: 2件 起業件数: 2件 空き店舗活用支援事業数: 1件 																																																		
ウ. 企業誘致及び起業支援	<ul style="list-style-type: none"> 地元出身者等の起業促進補助の構築、町外向けPR検討 雇用奨励金検討 → 梶延町商工業雇用促進補助金創設 町における標準的な企業誘致条例制定、町外へPR 	<ul style="list-style-type: none"> 新規起業支援事業 新規雇用助成事業実施 企業誘致優遇策拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 起業件数: 2件 新規正規職員雇用増加数: 5名 企業誘致: 2件 																																																		
エ. 再生可能エネルギー事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家電所致談要請・オトノカイ風力発電所運営事業協力・浜里地区風力発電事業推進 																			<ul style="list-style-type: none"> 新規再生可能エネルギー事業所数: 1件 																																	
(2) まちへ新しい人の流れをつくる	<table border="1"> <tr> <td>ア. 移住・定住の促進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 移住促進住宅整備 移住促進住宅運営 拡大 持家住宅建設等支援 AP補助、店舗改修等補助 空き家・空き地バンク情報収集 運営・更新 農業実習生・農業体験・移住体験者受入事業 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 民間賃貸住宅建設補助利用促進策検討 さらなる移住定住住宅等整備検討 → H30～ 同率別移住促進住宅(3戸目)オープン ちょっと暮らし住宅整備検討 → H30～ ちょっと暮らし住宅(棟数2戸、同率別1戸)オープン 家財道具処分費助成検討 H30～ 移住情報PR支援センター開設(地域おこし協力隊を活用した移住相談窓口) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新規移住、定住住宅の提供戸数: 20戸 住宅の新築、改修補助件数: 5件 空き家バンクの登録件数: 20件 体験者受入数: 10人 </td> </tr> <tr> <td>イ. 観光資源の発掘</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 観光等複合施設整備に向けた構想の具体化 地産(観光)振興計画策定・観光等複合施設整備構想 観光振興計画アクションプランの策定 実施計画策定 施設整備 トナカイ牧場場所・方向性検証、特産品開発 防災付加的機能構想を設定すること 鉄道系資産の観光資源化、戦略の見直しを含めて検討すること 観光全盛の再構築を目指すこと トナカイ、青いケシ、心象館、森林公園の在り方を議論し、方向性を見出すこと → 開業120周年に向けたノースゲーン整備、町内での青いケシ生育検討 計画で、関係者合意形成を図り、市街地区との導線確保を盛り込むこと 検討内容を踏まえ、観光等複合施設の具体的な方向性・イメージを決定すること → まち・ひと・しごと創生会議・ワークショップで方向性の検討を実施 持ち帰り可能な土産(特産品)の商品開発の必要性 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊活用: イベント企画・実施 観光協会・町職員等 協力隊の多面的機能を備えた活動拠点整備を検討すること 活動認知のため、活動情報や観光情報発信に努めること → 活動報告会の実施 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> トナカイ観光牧場入場者数: 47,109人→50,000人 鉄道系観光客数年間: 500人 </td> </tr> </table>																				ア. 移住・定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> 移住促進住宅整備 移住促進住宅運営 拡大 持家住宅建設等支援 AP補助、店舗改修等補助 空き家・空き地バンク情報収集 運営・更新 農業実習生・農業体験・移住体験者受入事業 	<ul style="list-style-type: none"> 民間賃貸住宅建設補助利用促進策検討 さらなる移住定住住宅等整備検討 → H30～ 同率別移住促進住宅(3戸目)オープン ちょっと暮らし住宅整備検討 → H30～ ちょっと暮らし住宅(棟数2戸、同率別1戸)オープン 家財道具処分費助成検討 H30～ 移住情報PR支援センター開設(地域おこし協力隊を活用した移住相談窓口) 	<ul style="list-style-type: none"> 新規移住、定住住宅の提供戸数: 20戸 住宅の新築、改修補助件数: 5件 空き家バンクの登録件数: 20件 体験者受入数: 10人 	イ. 観光資源の発掘	<ul style="list-style-type: none"> 観光等複合施設整備に向けた構想の具体化 地産(観光)振興計画策定・観光等複合施設整備構想 観光振興計画アクションプランの策定 実施計画策定 施設整備 トナカイ牧場場所・方向性検証、特産品開発 防災付加的機能構想を設定すること 鉄道系資産の観光資源化、戦略の見直しを含めて検討すること 観光全盛の再構築を目指すこと トナカイ、青いケシ、心象館、森林公園の在り方を議論し、方向性を見出すこと → 開業120周年に向けたノースゲーン整備、町内での青いケシ生育検討 計画で、関係者合意形成を図り、市街地区との導線確保を盛り込むこと 検討内容を踏まえ、観光等複合施設の具体的な方向性・イメージを決定すること → まち・ひと・しごと創生会議・ワークショップで方向性の検討を実施 持ち帰り可能な土産(特産品)の商品開発の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊活用: イベント企画・実施 観光協会・町職員等 協力隊の多面的機能を備えた活動拠点整備を検討すること 活動認知のため、活動情報や観光情報発信に努めること → 活動報告会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> トナカイ観光牧場入場者数: 47,109人→50,000人 鉄道系観光客数年間: 500人 																									
ア. 移住・定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> 移住促進住宅整備 移住促進住宅運営 拡大 持家住宅建設等支援 AP補助、店舗改修等補助 空き家・空き地バンク情報収集 運営・更新 農業実習生・農業体験・移住体験者受入事業 	<ul style="list-style-type: none"> 民間賃貸住宅建設補助利用促進策検討 さらなる移住定住住宅等整備検討 → H30～ 同率別移住促進住宅(3戸目)オープン ちょっと暮らし住宅整備検討 → H30～ ちょっと暮らし住宅(棟数2戸、同率別1戸)オープン 家財道具処分費助成検討 H30～ 移住情報PR支援センター開設(地域おこし協力隊を活用した移住相談窓口) 	<ul style="list-style-type: none"> 新規移住、定住住宅の提供戸数: 20戸 住宅の新築、改修補助件数: 5件 空き家バンクの登録件数: 20件 体験者受入数: 10人 																																																		
イ. 観光資源の発掘	<ul style="list-style-type: none"> 観光等複合施設整備に向けた構想の具体化 地産(観光)振興計画策定・観光等複合施設整備構想 観光振興計画アクションプランの策定 実施計画策定 施設整備 トナカイ牧場場所・方向性検証、特産品開発 防災付加的機能構想を設定すること 鉄道系資産の観光資源化、戦略の見直しを含めて検討すること 観光全盛の再構築を目指すこと トナカイ、青いケシ、心象館、森林公園の在り方を議論し、方向性を見出すこと → 開業120周年に向けたノースゲーン整備、町内での青いケシ生育検討 計画で、関係者合意形成を図り、市街地区との導線確保を盛り込むこと 検討内容を踏まえ、観光等複合施設の具体的な方向性・イメージを決定すること → まち・ひと・しごと創生会議・ワークショップで方向性の検討を実施 持ち帰り可能な土産(特産品)の商品開発の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊活用: イベント企画・実施 観光協会・町職員等 協力隊の多面的機能を備えた活動拠点整備を検討すること 活動認知のため、活動情報や観光情報発信に努めること → 活動報告会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> トナカイ観光牧場入場者数: 47,109人→50,000人 鉄道系観光客数年間: 500人 																																																		
(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかえする	<table border="1"> <tr> <td>ア. 結婚・出産・子育てへの支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 出逢いの場創設 アンケート調査 町内での婚活イベント開催 若い世代自身の盛り上がりが必要(リーダー的存在の必要性) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 年間結婚件数: 5~6件→8件 </td> </tr> <tr> <td>結婚さん支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 新婚生活応援事業 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 年間出生者数: 25件→30件 </td> </tr> <tr> <td>妊活支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 妊婦健診助成限度撤廃 妊婦健診助成の拡充 妊婦健康診査交通費助成 特定不妊治療費助成事業(体外受精・顕微授精・人工授精(一般不妊治療)) 出産祝い金制度 育児支援の要素を含む形で出産祝い金制度設計 → H30年度～ 制度実施 </td> <td></td> </tr> <tr> <td>子育て支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 開業別へき地保育所充実 子育て支援センター開設 ファミリー・サポート・センター運営 養育手当支給 子育て世代包括支援センター設置 サポーター研修事業 チャイルドシート購入助成・無償貸与 子ども医療費無償化: 中学生以下 子ども医療費無償化: 高校生まで拡充 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 奨学資金貸付金の拡充 </td> </tr> </table>																				ア. 結婚・出産・子育てへの支援	<ul style="list-style-type: none"> 出逢いの場創設 アンケート調査 町内での婚活イベント開催 若い世代自身の盛り上がりが必要(リーダー的存在の必要性) 	<ul style="list-style-type: none"> 年間結婚件数: 5~6件→8件 	結婚さん支援	<ul style="list-style-type: none"> 新婚生活応援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 年間出生者数: 25件→30件 	妊活支援	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦健診助成限度撤廃 妊婦健診助成の拡充 妊婦健康診査交通費助成 特定不妊治療費助成事業(体外受精・顕微授精・人工授精(一般不妊治療)) 出産祝い金制度 育児支援の要素を含む形で出産祝い金制度設計 → H30年度～ 制度実施 		子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 開業別へき地保育所充実 子育て支援センター開設 ファミリー・サポート・センター運営 養育手当支給 子育て世代包括支援センター設置 サポーター研修事業 チャイルドシート購入助成・無償貸与 子ども医療費無償化: 中学生以下 子ども医療費無償化: 高校生まで拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 奨学資金貸付金の拡充 																					
ア. 結婚・出産・子育てへの支援	<ul style="list-style-type: none"> 出逢いの場創設 アンケート調査 町内での婚活イベント開催 若い世代自身の盛り上がりが必要(リーダー的存在の必要性) 	<ul style="list-style-type: none"> 年間結婚件数: 5~6件→8件 																																																			
結婚さん支援	<ul style="list-style-type: none"> 新婚生活応援事業 	<ul style="list-style-type: none"> 年間出生者数: 25件→30件 																																																			
妊活支援	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦健診助成限度撤廃 妊婦健診助成の拡充 妊婦健康診査交通費助成 特定不妊治療費助成事業(体外受精・顕微授精・人工授精(一般不妊治療)) 出産祝い金制度 育児支援の要素を含む形で出産祝い金制度設計 → H30年度～ 制度実施 																																																				
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 開業別へき地保育所充実 子育て支援センター開設 ファミリー・サポート・センター運営 養育手当支給 子育て世代包括支援センター設置 サポーター研修事業 チャイルドシート購入助成・無償貸与 子ども医療費無償化: 中学生以下 子ども医療費無償化: 高校生まで拡充 	<ul style="list-style-type: none"> 奨学資金貸付金の拡充 																																																			

基本目標	ロードマップ												成果目標								
	H27				H28				H29					H30				H31			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
(4) 時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守る																					
ア. 高齢者福祉と健康・生きがいづくりの推進																					
社会福祉団体・ボランティア組織体制整備・機能強化	いきいきブルーポイント事業(健康づくり事業・ボランティアへの参加へのポイント付与)																				
	ポイント対象事業の拡充																				
	ボランティア組織実施機関検討(社協・NPO法人・地域おこし協力隊など)																				利用件数: 200件
	社協・市民後見人実施機関、日常生活自立支援事業実施、ホームヘルプ事業横だしサービス実施																				
社会福祉士採用に向けての協議	日常生活自立支援・後見人実施機関・横だし事業等検討																				
社会福祉協議会体制強化																					
事務局長人件費助成	事務局長及び社会福祉士1名分の人件費助成																				65歳以上の年間転出数: 12~16人→7件
	市民後見人フォローアップ研修経費等必要経費の助成																				
	横だしサービス事業に係る収支の差額等助成																				
地域おこし協力隊活用による日常生活支援	高齢者の生活支援 シルバー人材センターの調査研究																				協力隊導入者延人数: 15人
	高齢者生活支援事業内容の検討(おせっかい隊の活動)																				
	NPO法人の立上りに係る調査研究																				
	高齢者福祉の現状調査分析																				
	地域おこし協力隊活用(募集)の検討																				
	シルバー人材センターの運営形態等の方向性を再検討																				
	シルバー人材センター事務局検討(社協・NPO法人・地域おこし協力隊など)																				
イ. 教育環境の整備と教育の充実																					
小中一貫教育の推進事業	子ども朝活(学習支援)・中学校「のびのびはつらつ学習会(長期休業中の学習会、放課後学習会など)」																				全国学力・学習状況調査の正答率: 全国平均以上に(H26ほぼ全国平均)
	・幼小、小中の大規模改修については、今後の児童生徒数の減少を考慮しつつ、校舎統合(建替え)も視野に入れながら方向性を検討																				
	・小中一貫校の方向性は町長選も確認しながら検討																				
ICT(情報通信技術)を活用した授業の推進	タブレット、拡大投影機等の導入																				PC等を活用した授業: 月1回→週1回以上
情報教育センター充実																					
	・学校のレベルアップのための利活用方法検討																				
	・教員が変わっても利活用できる仕組み検討																				
	・ICTに特化した地域おこし協力隊員の導入検討																				
外国語教育推進事業	ALTの採用(民間へ業務委託)																				ALT配置: 1名→2名
	・児童生徒や一般町民向けセミナーやイベントの開催を検討																				
	・授業外の休み時間等の触れ合いも必要																				
ふるさと教育事業	ふるさと自然体験チャレンジ教室「節足体験」、工場見学(牛舎、雪印等)、小中学校「社会科見学」など																				産業体験者数: 100人
	乳製品で料理教室(地場産品を使用した新メニュー考案など)																				
	・基幹産業の魅力を理解する仕組みを検討 → 一般向けに呼び掛けるなどの工夫を検討																				
	・大きな視点で産業を学ぶ必要がある(地元での産業体験について検討)																				
子ども向け運動事業	調査研究																				全国体力・運動能力・運動習慣等 調査結果: 全国平均以上に(H26平均以下)
	居場所や朝活との連携(稚内北星学園連携) 子ども朝活+年2回程度 子ども教室実施(ダンス等)																				
	社会体育事業との併用(水泳教室、スキー教室、エアロビクス教室等)																				
	スポーツ推進委員と協議、計画 年間7事業程度の教室を企画																				
	・体育館やプールの大規模改修後の利用促進に関する方策を検討																				
	・子育て世代の主婦層などが、(平日の午前など)参加しやすい時間帯での開催を検討																				
	・稚内北星学園大学との連携協定締結検討																				
ウ. ふるさと納税によるまちづくり																					
ふるさと納税地域活性化対策事業	クレジットカード決済導入																				おみやげ品、特産品開発
	返礼品追加・開発(雪印・青いウシトナカイ・大使グッズ・富士元氏写真集など)																				
	・雪印製品の取扱いは不公平感が生じないよう広く各店舗へ提案すること																				
	・町イベントで、全ての職員が能動的に参加する仕組みをつくること																				
	・地場産品開発等チーム設置すること																				
	・地場産品開発育成、支援制度創設、組織(多角)化、加工研修施設整備を検討すること																				
	・若いウシのグレードアップ(商品)化すること																				
	・町内向け食用トナカイ肉生産体制を検討すること																				
	・ふるさと納税返礼品に「雪印/ウシ一等製品」を加えること																				
	・町内各水製品化をすすめること																				
(5) 地域と地域を連携する																					
ア. 地域連携による再生可能エネルギーの導入推進																					
道北地域再生可能エネルギー事業	道北地域再生可能エネルギー事業																				新規再生可能エネルギー事業数: 1件
風力送電網整備(道北送電網整備事業)事業	関係機関(国・道)要請活動(稚内市・豊富町・中川町連携)・ルート選定調査等協力・庁内関係部署調整																				
風力発電施設整備(浜里地区風力発電事業推進への協力(町有地の提供・地質調査等)・オトノレイ風力発電所運営事業への協力(用地交渉・視察見学対応・リブリースの検討等)																					
バイオマス: 道北地域での導入推進→セミナーの開催による情報提供(幌延町バイオマス可能性調査業務の一環)																					
	・バイオマスの利活用の工程表を作成すること																				
	・モデルプラント整備を検討すること、ハウス調音のようなものの実証実験ができない検討すること																				
イ. スポーツ大会と合宿等の地域連携による推進																					
スポーツ大会及び合宿誘致事業	補助制度の創設に向けた調査研究																				スポーツ大会・合宿数: 年間5件
受入体制整備・実施体制・関係部署調整・公共施設の使用の拡充・整理(目的外使用)集会施設・老人福祉センター等																					
	・既存ストックの活用を検討 → 町内会館の宿泊試験利用を実施																				
	・町にお金が落ちる仕組み検討																				
	・受け入れ体制の構築づくりをすること																				

幌延町地域振興（観光）計画推進に向けた平成 30 年度の取組み（案）

1. これまでの取組み概要

年度	概要
H28	<p>幌延町地域振興（観光）計画の策定</p> <p>① 観光に関する既存資料整理及び観光動向調査の実施 ①-1 観光に関する既存資料整理 / ①-2 観光客アンケート調査</p> <p>② 検討委員会及び勉強会の開催補助 ②-1 検討委員会の開催補助 / ②-2 勉強会の開催</p> <p>③ 検討ワークショップ及び町内観光資源確認調査の実施 ③-1 検討ワークショップの開催 / ③-2 町内観光資源確認調査の実施</p> <p>④ 計画の策定</p>
H29	<p>幌延町地域振興（観光）計画アクションプランの策定</p> <p>① 関連事業者からの意見聴取</p> <p>② 検討委員会、ワークショップ及び庁内協議の開催</p> <p>③ 計画の推進に向けた試行調査等の実施 ③-1 町内ボランティアによる施設の環境整備 ③-2 体験コンテンツ開発 ③-3 地元食材等を使用した料理の試食会</p> <p>④ 講演会の開催</p> <p>⑤ アクションプランの策定</p>

2. 平成 30 年度取組み（案）

① アクションプランの推進

①-2 着地型コンテンツの検討

平成 29 年度の学生モニターツアーの結果を踏まえ、着地型のコンテンツの検討及び一般旅行者を対象としたモニターツアーを実施する。

①-2 特産品開発の検討

トナカイ、合鴨、乳製品など、幌延町らしい食資源を活用し、専門家からのアドバイス等を踏まえ、新たな地域特産品の検討・試食会を行う。※拠点で提供するワンハンドグルメを想定。今年度の試食会を踏まえ、具体的な開発を進める。

①-3 観光マネジメント組織の検討

観光協会や地域 DMO の可能性も含め、今後、幌延町の観光振興を担う組織・機関について検討を行う。
 ※拠点の指定管理・運営組織を想定

② 拠点計画の検討

②-1 勉強会の開催

地域における拠点のあり方や運営などを学ぶため、道の駅などの拠点について豊富な知識や実績を有している有識者を招聘し、勉強会を 1 回開催する。

②-2 ワークショップの開催

拠点の運営や機能等の計画について、町民の意見を広く取り入れるため、検討ワークショップを 2 回開催する。

②-3 拠点計画の策定

ワークショップや検討委員会の議論を踏まえ、幌延町における拠点（道の駅）の機能や配置などの具体的な計画を策定する。

③検討委員会及び庁内協議の運営・開催支援

③-1 検討委員会の開催支援

幌延町まち・ひと・しごと創生会議による検討委員会を 5 回開催する。

③-2 庁内協議の運営支援

庁内関係者による協議を 2 回開催する。